

本人起点・本人視点に立って、共生社会づくりを分野横断で進める ～誰にとっても重要な「防災」を結節点にしながら～

御坊市役所 総務部 防災対策課 谷口 泰之



本人の「新庁舎の玄関に飾る門松を作りたい」の声から実現

御坊市観光PR大使 みーやちゃん
(防災バージョン)

自己紹介

- 平成14年度 御坊市役所に入職（教委へ出向）
- 平成19年度 地域包括支援センター（直営）に配属
- 平成25年度 認知症地域支援推進員となる
（包括業務、認知症施策担当と兼務）
- 令和 5年度 防災対策課へ異動

御坊市について



御坊市は紀伊半島西側、南北の中央に位置し、年間通して温暖な気候で農産物が盛んで、特にスターチスやスイートピーは全国屈指の出荷量であり、「花のまちごぼう」としてPRしている。

令和6年3月31日時点

総人口	2 1 , 3 1 4 人
6 5 歳以上人口	7 , 0 9 1 人
高齢化率	3 3 . 2 %
日常生活圏域	6 圏域
面積	4 3 . 9 km2
認知症地域支援推進員 ※配置先	1 0 人 包括、地域密着型事業所、在支等
要介護認定者数	1 , 7 9 0 人
地域包括支援センター	1 か所

御坊市の概要



面積が小さくコンパクト
海、山、川に囲まれている
昼夜間人口比率：115%

周辺町からの
通勤・通学者
等が多い



日本一の生産量スターチス



日本一短い鉄道”紀州鉄道“



キャンピングカーの聖地



日高地域最大の御坊祭り

御坊市の認知症施策の考え方

本人（認知症の人）の声に耳を傾け、本人の視点に立ち、本人とともにこれからの暮らしを考える。
その先に、認知症になっても自分らしく暮らせるまちをつくるために、多くの仲間（本人を含む）と地域づくりに取り組む。

本人視点の重視

御坊市認知症の人と築く総活躍のまち条例

平成31年4月1日施行

認知症の人が「支えられる」「守られる」一方ではなく、
認知症になっても自分の力を活かして社会の一員として豊
かに暮らし続けられる社会を目指し、**認知症の人とともに
条例を策定**し、以下の基本理念を定める。

認知症になってか
らも希望と尊厳を
保持し、自分らし
い暮らしができる
こと。

認知症の人がその
意思によりできる
ことを安心かつ安
全に行え、いつま
でも 新たなことに
挑戦できること。

認知症の有無にか
かわらず、全ての
市民が暮らしやす
いまちとなるため
にそれぞれが活躍
できること。

認知症の人とともに条例策定

認知症の人の意見を聞くため、条例作成ワーキングチームに2名の本人が参加。

2名以外にも、認知症対応型デイサービスやグループホームに出向いたり、自宅を訪問して本人の意見を聞く。

講演会や会議の場でなくても、
日常生活の中で本人の声を
たくさん聴くことができる！



条例作成WTにおいて2名の本人と関係機関等が協働で内容を検討

御坊市認知症施策推進基本計画

条例の基本理念を実現するための具体的な施策を推進するための基本計画を策定。7つの指針に基づき、取り組みを実施。（令和3年度から1期3カ年）

①認知症・認知症の人への先入観の払拭

先入観の払拭ができれば
各取り組みが進展する

各取り組みが進展すれば
先入観が払拭できる

- ②認知症の人を起点とした地域協働による「よりよい暮らし」の実現
- ③認知症の人にとっての暮らしやすさの向上（さまざまなバリアの解消）
- ④地域ぐるみの暮らしの支え合いの質の確保と向上
- ⑤アクションプラン実施のためのフォーメーションづくり
- ⑥市民にわかりやすい情報発信
- ⑦柔軟な評価と実践

事業の成果を求めるものではなく、認知症の人にとって暮らしやすいまちになっているかどうか、**本人とともに評価**をし、必要な施策を展開していく。

防 災

認知症

これまで認知症の人の視点で「防災」のことを考える機会があったか？

支援者の視点だけで話し合ってこなかったか？

誰と避難したい？

何があれば、何を知っておけば、安心できる？

被災後の介護サービスはどうする？

防災の視点での話

御坊市のハザードリスク

避難行動要支援者、個別避難計画

庁内連携

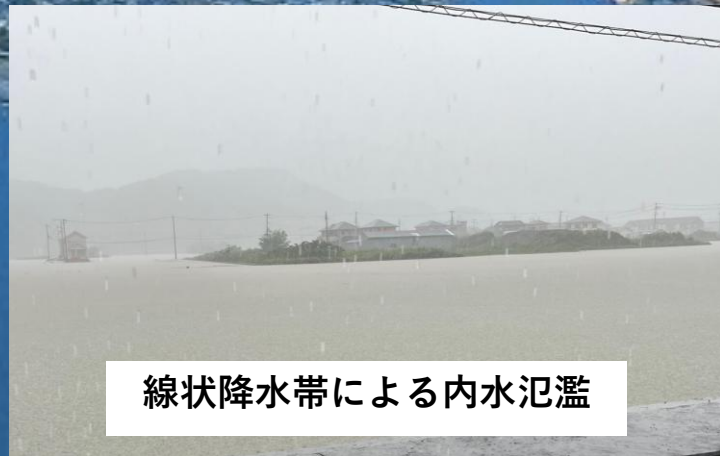
地域での防災まちづくり

御坊市のハザードリスク

昼夜間人口比率：日中は人口が約 3 千人増
→ 帰宅困難者の発生

市外の介護サービス利用者も多くいる

河川がある：氾濫、洪水



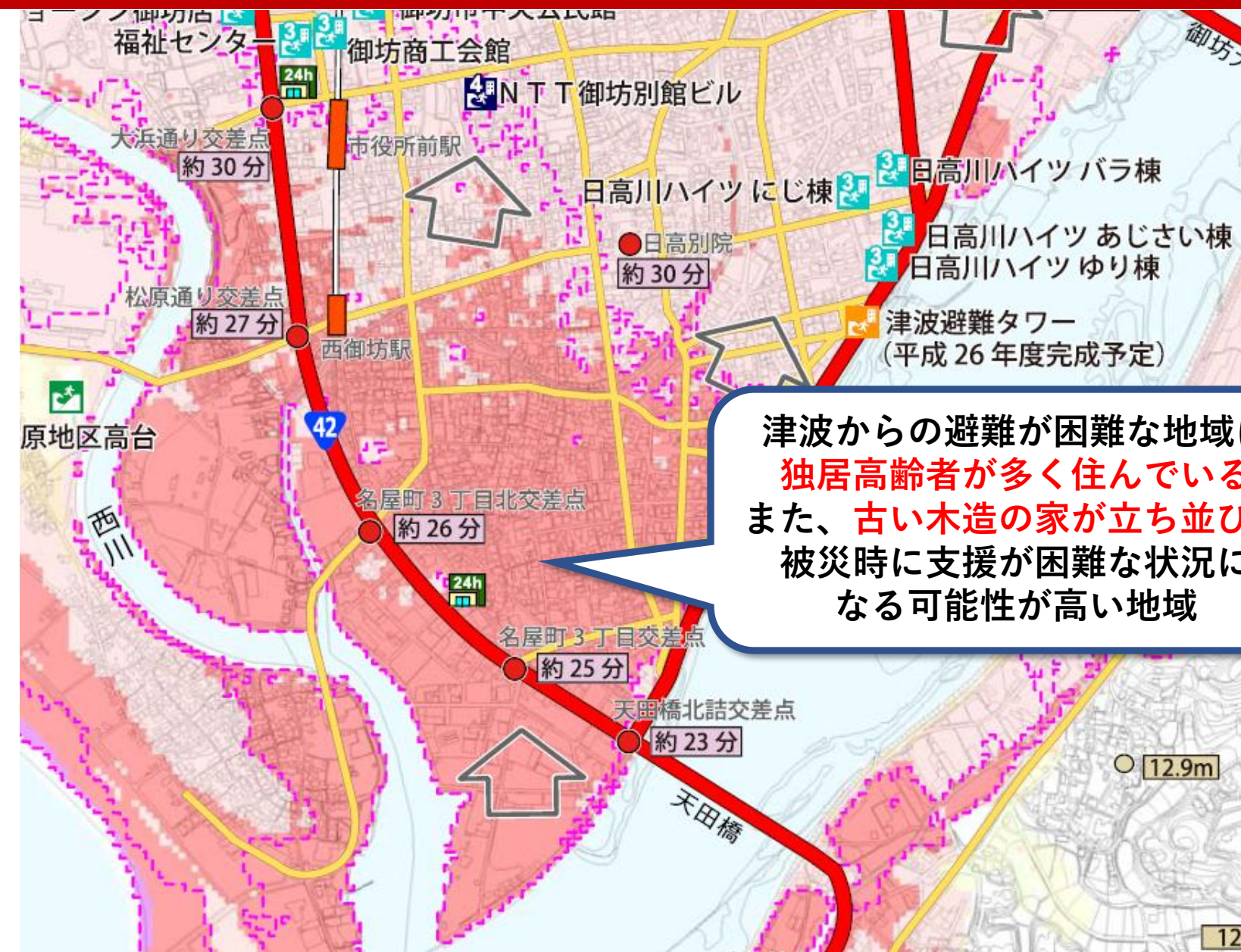
山に囲まれている：土砂災害



海に面している：高潮、津波

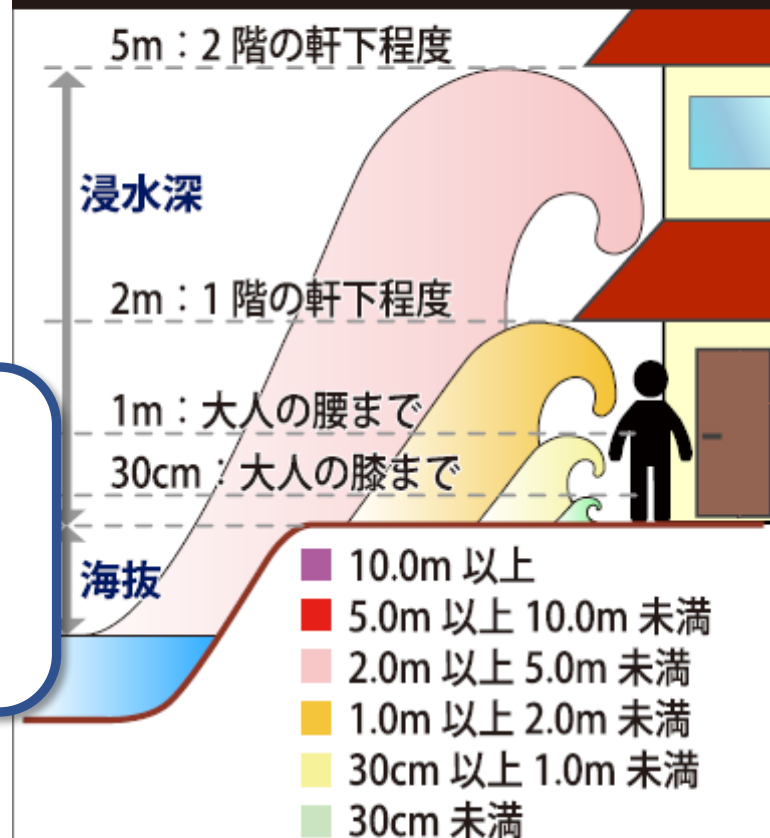


津波ハザードマップ



津波からの避難が困難な地域に
独居高齢者が多く住んでいる
また、**古い木造の家が立ち並び、**
被災時に支援が困難な状況に
なる可能性が高い地域

南海トラフ巨大地震時に予想される 津波の浸水深 (地面からの津波の高さ)



東海・東南海・南海 3 連動地震時に 予想される津波の浸水範囲

浸水が予想される範囲

大地震の脅威は津波だけではありません

震度6～7クラスの地震が発生すると

- 家屋の倒壊
- 道路の使用不可(崩落、電柱倒壊等)
- 断水、停電等のライフライン停止
- 土砂災害(土砂崩れ、崖の崩落等)

など、様々な被害が一気に押し寄せます。

能登半島地震の被害の様子（令和6年3月 御坊市職員撮影）



災害発生後、急激な環境変化が起こる

- 自宅へ帰れない
- 馴染みのない人と、非日常な環境での避難生活（集団生活、通信、衛生的な問題等）
- 介護サービスの提供停止または変更

平時とは違う環境となったときのストレスはかなり大きい。少しでも軽減するため、**平時からの備えが大事**であるが、**本人が知らないまま進めてしまうと、災害時に混乱してしまう可能性がある。**



高齢者や認知症の人、独居の方が多く住むこの地域で
安心して暮らせるまちづくりに必要なことは？

「防災対策」は様々なところと関わりがある



「連携」と思いとのギャップ

令和5年4月に防災対策課へ異動して
自身の防災に関する知識がかなり乏しかったことに気づく

- 南海トラフ巨大地震と
南海トラフ3連動地震の違い

- 自主防災組織ってどういう組織？

- 災害対策本部の役割や
災害時のそれぞれの部署の役割は？

「連携」と思いとのギャップ

令和5年4月に防災対策課へ異動して
福祉部局の業務があまり知られていないことに気づく

地域包括支援センターってなに？
どこにあるの？

直営
なのに・・・

ケアマネジャー、ヘルパーって
何する人？違いがわからない

普段から「顔の見える関係」ができていなければ
知らないのは当然のこと

防災に関する業務が縦割り？

- ・避難行動要支援者
- ・個別避難計画
- ・被災時の救護所立ち上げ・運営

県も福祉部局が
一部担当している

これらの業務は、防災対策課ではなく、**福祉部局が担当**。

「避難行動要支援者」「個別避難計画」の対象者については福祉部局にしかわからない情報が多い。

しかし、その方々の避難先や避難方法、地域の自主防災組織の情報等は防災対策課が持っている。

なぜ、両者が協働で進めてこれなかった？

→**防災業務は防災対策課、という意識がある**

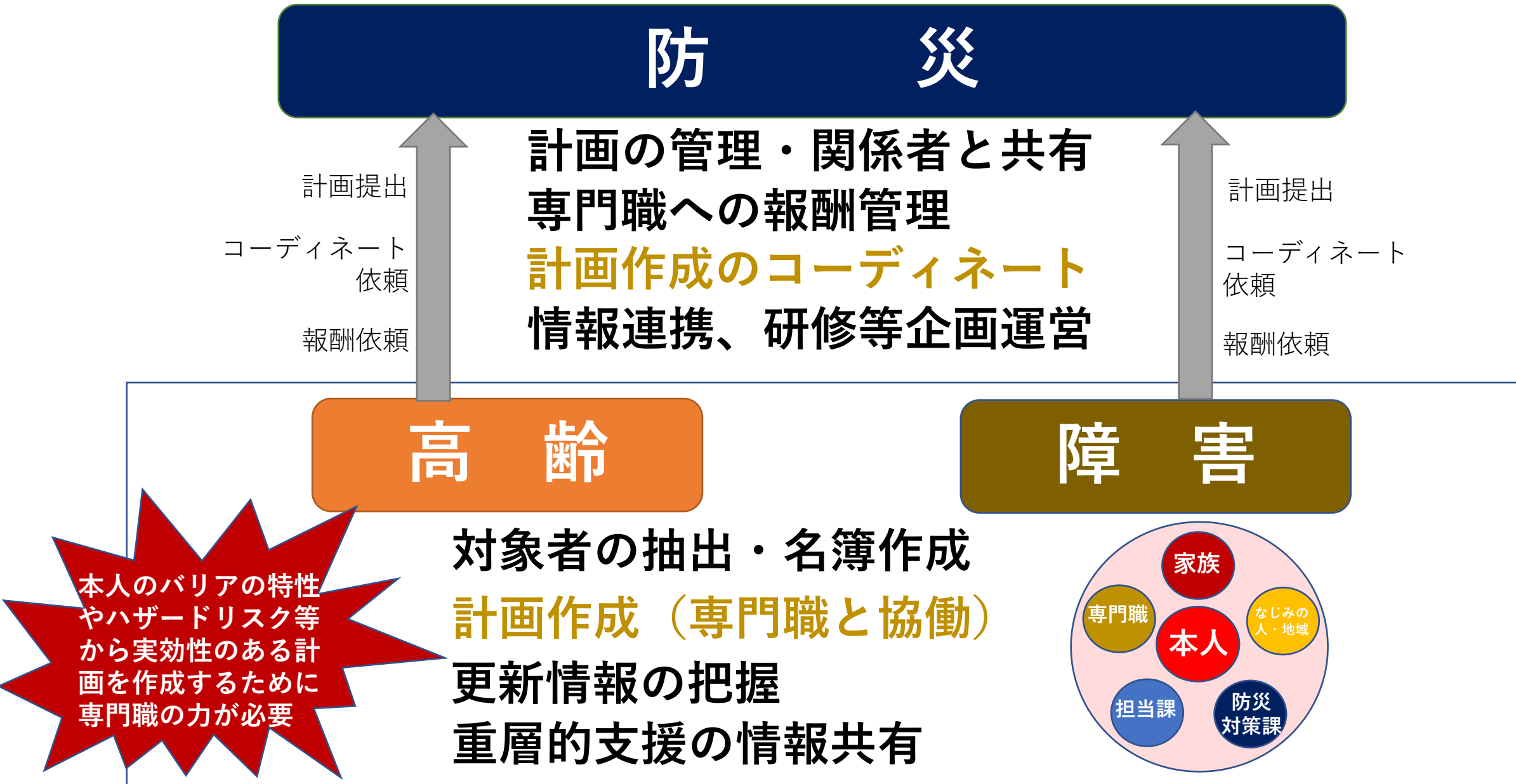
避難行動要支援者

在宅の方で、災害時に危険を察知したり状況判断することが困難、また、自力で避難することが困難な高齢者や障害者等を事前に登録し名簿作成



避難行動要支援者のうち、心身の状態や自宅のハザードリスクの状況等からリスクの高い方について、災害発生時の避難場所や経路、支援者等を事前に考えておく「個別避難計画」を作成

個別避難計画作成の連携イメージ図（案）



防 災

計画の管理・関係者と共有
専門職への報酬管理
計画作成のコーディネート
情報連携、研修等企画運営

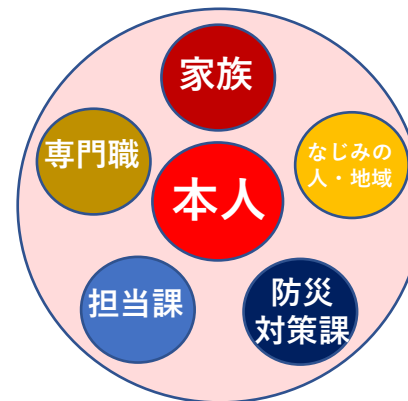
計画提出
コーディネート
依頼
報酬依頼

計画提出
コーディネート
依頼
報酬依頼

高 齢

障 害

対象者の抽出・名簿作成
計画作成（専門職と協働）
更新情報の把握
重層的支援の情報共有

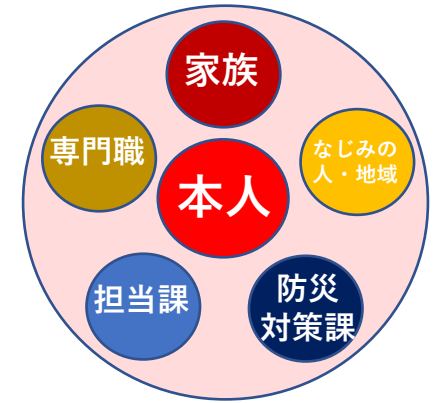


本人のバリアの特性
やハザードリスク等
から実効性のある計
画を作成するために
専門職の力が必要

個別避難計画の作成は本人も参加を



個別避難計画作成時は、専門職の役割は
かなり重要であるが、本人不在で進めると、**実効性のある計画**にはならない。



本人の声

「今まで、避難や備蓄のことは、家族に全部任せようと思っていたけど、**自分がわかってなかったら、一人のとき助からんかもしれん。**今日、話を聞いて、**自分自身で逃げられる方法を考えとかなんて思ったよ。**いざ逃げるときに、お薬もすぐ持っていけるように、お水・お薬手帳と一緒に数日分まとめて置いとくよ」

個別避難計画の作成時、本人を中心に話をすることで、「助けられる」ということだけでなく、どうすれば自分の命を守れるのか「自助」の気づきを促すことにつながる。

認知症コーディネーター会議に参加

認知症コーディネーターとは

市担当者、保健師、社会福祉士、認知症地域支援推進員、グループホーム、認知症デイ、小規模多機能、居宅介護事業所、認知症疾患医療センター、社会福祉協議会等のメンバーで月1回の定例会を開催。最近では、認知症の人も参加することもあり、認知症になってからも自分らしく暮らせるまちづくりを話し合っている。

「庁内連携」っていきなり全庁は難しいけど、繋がれるところから始めればいい！

防災対策課からも、会議に参加

個別避難計画に関することや、地域別ワークショップの取り組み等の内容について共有をさせていただいている。

会議に参加し、お互いの思い、ともにできそうなことを話し合うことで、それぞれの取り組みで相互に協力できる体制づくりを少しずつ具現化している。



月1回の定例会は「楽しく気軽に」

生活支援コーディネーターに誘われて

生活支援コーディネーター（SC）から「今度、民生委員さんたちと地域の防災について話し合う予定なので、ぜひ来てくれませんか？」と誘われ、参加。

備えや避難の仕方等について話し合い「今まで認知症の人の避難とか、あんまり考えたことなかったよね」「本人に聞かないと何が不安なのか分からないよね」「**私たちも認知症になるかもしれないんだから、本人と一緒に考えた方がいいかもね**」等の意見が聞かれた。



地域住民、SC、推進員、地域密着型事業所のメンバーで集まり話し合う

助け合いのまちづくりのための

民生委員&見守り協力員

意見交換会

11 \ 27 水

14:00~15:30

藤田コミュニティセンター2階

参加者

藤田町の民生委員 児童委員さん 藤田町の見守り協力委員さん
在宅介護支援センター藤田 地域密着型複合施設あがら花まる
御坊市地域包括支援センター 御坊市社会福祉協議会

認知症地域支援推進員・SC等の力を借りて

日常生活圏域の単位で、土砂災害・洪水避難対策ワークショップを開催。

認知症地域支援推進員、それぞれの地区担当の生活支援コーディネーター、介護事業所等にも声をかけ、参加いただく。

避難行動要支援者名簿も共有し、被災時、それぞれの対象者にどのような支援が必要か、検討を行った。

地域住民だけではわからない支援の方法を専門職から具体的に伝えることで、自分たちでもできることがあると、「**共助**」の意識向上につながった。



地域住民、推進員、SCたちが
ハザードマップを広げ情報共有



推進員時代の繋がりから災害時支援協定締結

能登半島地震の支援業務に行き、入浴ができない環境が衛生面や精神面においても影響を与えることを痛感。
御坊市で大きな災害があったときに、
どうしよう？

いつも集まるスーパー銭湯があるじゃないか！

早速、店長に相談。

「うちのお湯は地下水をくみ上げているので、入浴だけじゃなくて、断水時は生活用水も必要となると思うから、ぜひ使ってください。」

すぐに、災害時施設利用の協力に関する協定を締結することができた。



認知症の人や家族、仲間たちが集う「**ごぼうホットサロン**」。
会場は、地域のスーパー銭湯。
お風呂に入ったり、お食事を食べて談笑したり。
過ごし方は、参加者それぞれ。

自主防災組織とともに

「**楽しみながら”防災“を知ろう**」を
コンセプトに、協賛企業の寄付を募って
イベントを開催。公費負担はゼロ。
約4,000人が来場。



介護福祉課職員の指導による
ステキ体操GO!GO!GOBO



ミキサー車でガチャガチャポン
子どもたちが大行列

このようなつながりが、のちに活かされるはず！
災害時だけでなく、認知症の人の普段の暮らしにも！

ごぼう 防災 まつり
防災を楽しく知ろう！

誰でも参加OK

令和5年6月18日(日)
10時～15時まで
※小雨決行(大雨の場合、延期となります)

場所 新町地区津波避難タワー
伊勢屋倉庫
小竹八幡神社前

駐車場 ジャスコ
オークワ
跡地

食べる 食べものはすべて **無料!!** (露店は除く)
避難タワーに登って
「防災カレー券」をゲットしよう!
防災カレー ゴンゴン菓子
わた菓子

見る 災害時に活躍する車が大集合!
色々な車を見てみよう!
消防車の展示も
やってる!

体験する 津波避難タワーで
ステキ体操
GO!GO!GOBO
を踊ろう!
災害に備えて健康づくり!

消火器体験コーナー
消火器の使い方や
災害時に役立つ
ロープワークを覚えよう!
※消火器はイメージです。実際の消火器には
必ずしも写っていません。

>> 消火器体験 のお子様限定で
ミキサー車で
ガチャガチャポンッ!

<来場者特典>
・来場者全員に防災食(わかめごはん)をプレゼント!
・抽選で豪華防災グッズ(8,000円相当)も当たる!

裏面に続く

主催イベントで福祉部局の力を借りて

御坊市市制施行70周年記念事業

主催：御坊市、一般財団法人自治総合センター

ごぼう防災ゼミ

基調講演

防災落語

入場無料



総合司会：栗山麻子さん
(フリーアナウンサー)

野口 健 先生
アルビニスト

桂 枝曾丸 先生
落語家

みーちゃん

大ホール

展示・体験

12:00~

- 音楽 御坊少年少女合唱団
- 体育 ステキ体操GO!GO!GOBO
- 国語 防災落語 桂 枝曾丸 先生
- 社会 基調講演 野口 健 先生
「災害を生き抜くために
～デント村という選択肢～」
- 総合 パネルディスカッション
「近年の災害と地域防災」
○コーディネーター
明石工業高等学校 本塚 智貴 氏
○パネラー
野口健氏、桂枝曾丸氏、御坊市長、
酒本和彦 御坊市自主防災組織連絡協議会長
入場整理券が必要です。
講演・パネルディスカッションには未就学児の
入場はできませんのでご了承ください。

10:00~16:00

- 地震体験車「ごりよう君」
- 特殊車両展示
- VR火災体験
- 健康チェック
避難するための体力づくり
- 避難所設営デモ
- 日本栄養士会
JDA-DAT局(災害支援車両)展示
災害時の食事提案(試食あり)

その他、様々な展示予定
展示ブースの小ホールは
自由に入場できます。



パネルディスカッション



特殊車両展示



避難所デモ設営



フェーズフリー展示



介護に関する展示ブース

市制施行70周年記念事業で防災イベントを開催。
展示ブースで、福祉の視点から、“いつも”と“もしも”のそなえ
「フェーズフリー」に関する展示を地域包括支援センターが行う。



2024.7.14(SUN)

御坊市民文化会館 10:00-16:00

大ホールの入場には
入場整理券が必要です。

入場整理券は、6月10日(月)
から御坊市役所防災対策課で配布
いたします。

開催事務局：御坊市防災対策課 御坊市園350番地2 御坊市役所4階 ☎ 0738-23-5528

行政は縦割りだから・・・??

「不満」は、裏を返せば「理想」を描いている。

理想と現実が重ならないから、不満を言い、ぼやくのである。

野村克也氏著「野村ノート」より引用

行政は縦割り、色々と堅いから前に進まない・・・

実は、前に進みたい、連携したいという理想は持っている？

「縦割りの打破」はハードルがとても高い・・・けど、
自分の力が何か役に立てないか、相手の立場を尊重してみる。
もしかすると、**あなたたちの力を必要としているかも！**
相手も、**あなたの役に立ちたいと思っているかも！**

巻き込む、より「巻き込まれる」意識で！

「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」

基本法の基本理念のひとつに

「教育、地域づくり、雇用、保健、医療、福祉**その他**
の各関連分野において総合的な取組として行われる。

認知症施策の取り組みは、
防災担当者が必要とする情報、資源が
たくさんあります！

ぜひ、防災施策に「巻き込まれて」みてください！

防災業務で認知症の人と関わり感じたこと

災害に対する不安は、誰もが持っている。
認知症であっても、そうでなくても。

自分の命は自分で守りたい。
安心して暮らせるまちにしたい。

住民からすれば、縦割りなんて、どうでもいいこと。

**きっと、どこの地域でも
同じ思いのはず！**

ご清聴
ありがとうございました

